

# 「黒島傳治文庫」について

佐藤和夫

黒島傳治（一八九八—一九四三）は

香川県小豆郡苗羽村（現小豆郡内海町）

出身で、「電報」「二銭銅貨」「雪のシベ

リヤ」「渦巻ける鳥の群」などすばらしい

作品を残し、生まれ故郷の小豆島で

肺結核のため四十五才の短い生涯を閉

じた昭和のプロレタリア作家である。

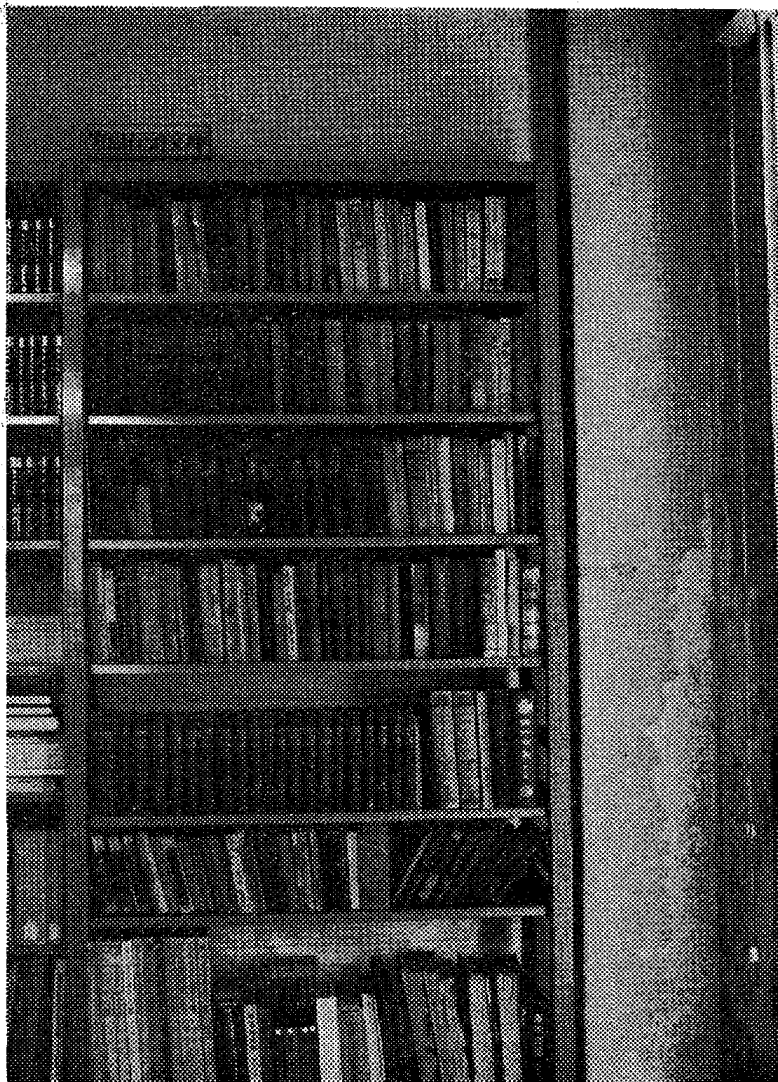
その輝かしい業績は『黒島傳治全集』

全三巻（「講談社」昭和四十五年四月

〜同八月）に収められている。

彼が生前愛読した書物が、小豆島坂

手港からバスで十二、三分のところ



図書館所蔵の「黒島傳治文庫コーナー」

ある香川県小豆郡内海町立図書館に「黒島傳治文庫」として百七十冊が保管してあることを知り、それらを昭和五十七年七月に閲覧させてもらった。その際、それらの入手経路を図書館の司書の方に尋ねたところ、遺族の方から寄贈されたものです、というだけで不明であった。そこでそれを知る島の人々に尋ね、黒島傳治の親類に当る人が内海町古江に住居し、すでに結婚して、柴田姓になっていることを知りお尋ねした。そして、その方が黒島傳治の弟、早太



柴田行夫氏 柴田葉栄子夫人(黒島傳治の姪)

氏の長女葉栄子氏で、現在は柴田行夫夫人である。その折、柴田氏夫妻所蔵の、傳治が愛蔵していた書物三十八冊と傳治の恋人、岡部咲子からであろうと思われる人からの文、一通を見せていただいたので、書物と共に後に紹介する。

夫人の話によれば、葉栄子という名前は、傳治が壺井栄と親しかったので、彼女の作品「大根の葉」の葉と壺井栄の栄をもらって命名したという。

柴田夫妻の話によれば、昭和四十年十一月十七日、黒島傳治の文学碑（一粒の砂の千分の一の大きさは世界の大きさである。黒島傳治、と刻み込まれた）が美しい海の見える小高い丘（内海芦ノ浦）の上に建立された際に、長男一美氏からあずかった書物であり、それらを自分達が持っている、なんの役にもたたないの図書館に寄贈したのだという。ところがそれらの本を、石炭箱に入れて七年余りもほこりをかぶったままに放置しておいた。柴

田氏はそれを見て非常に憤慨した。何も自分の女房の伯父の物だからという気持からだけではなく、文化保護の立場から、彼はこのずさんな取り扱いを指摘したのだという。当時柴田氏は香川県小豆郡内海町々会議員（昭和四十六年——五十四年。現在はマルナカ食品有限会社代表取締役）だったので、教育民生常任委員会でのずさんさを指摘した。そこで、やっと昭和四十八年十月一日（書物にはこの日付で、黒島傳治氏寄付とゴム印が押されているが、これもおかしいことで、当然柴田行夫氏寄付ないしは寄贈とすべきである）に一応「黒島傳治文庫」として図書館でコーナーを作り保管してある。以上がいきさつである。

柴田夫妻によれば、『黒島傳治全集』刊行前の、昭和四十年の暮れに小田切秀雄先生が尋ねて来られたが、その折にはこれらの書物は見ておられないとのことであった。たしかに、全集には資料としても収められていない。これらの書物には黒島傳治の印や署名があったり、書物によっては書き込み、走り書きがあり、生前の傳治の生きざまや面影がしのばれ、実に興味津々であった。文学書だけではなく、美術、造園、建築と彼の趣味は多方面にわたっていたことが知られる。

また、夫人の回想によれば、傳治は無口でやさしい性格で名付け親でもあり、最初の姪であったせいも、特に可愛がってくれ、『勉強はいいから身体を大切にしろなさい』といつも言ってくれたという。もともと黒島家は作品に登場してくるような貧困ではなく、むしろ中流以上の資産家であった。傳治の父、兼吉は『これからの人間は学問がなければだめだ』と常に子供達に話していたそうである。その例として、傳治の弟、光治が大川中学（香川県大川郡三本松高校の前身）に入学した時、彼の同級生は麦を全く知らず、麦を見てお米にすぎが入っていると聞いたほど裕福な子供ばかりの中学に入学させるだけの財力があつた。そんな中学に入れて他人からとやかく言われるのがこわかつた。これも小豆島の閉鎖的風習の一つだとも話してくれた。

昭和八年二度目の帰島以後、傳治の生活はほとんどベッドに伏したまま原稿を書き、病気の感染を恐れて、めつたに子供達を自分の部屋に入れなかったという。二度目のユキ夫人は傳治にやさしく彼の良き理解者でもあった。

大正元年——昭和七年ごろまで傳治の生家に借家住いでいた佐伯チヨさん（七十五歳、現在香川県小豆郡苗羽内海町芦ノ浦に住居。この場所は昭和九年傳治が家を建てた隣りで、傳治の家はそのまま残っていて、現在は他の人が住んでいる）にもお目にかかり、そのころ、チヨさんは、傳治と壺井栄が、一つのマントをかけ合って近所を散歩しているのを時折見かけ、恋人同志かしらと思ったという。傳治の生家は六畳が四間に、八畳と台所、それに大きな風呂と広い庭という住いであった。さらに傳治の印象を、『人柄もよく、他人の生活に干渉しようとせず、少し猫背であったが、大柄で、左の頬に傷があった』という。（多分シベリヤ従軍の際に受けたものであろう）

後年は、病床に板をつるし、その上で仰向けに寝ながら原稿を書くといった生活で、側のユキ夫人は辞引きを引く役であった。

壺井栄の文学碑は、老人会が毎日掃除しているのに対し、傳治のそれは訪れる人もほとんどなく、むしろ文学碑建立の際も町の有力者達は内心、あのボロ作家、なんかどうでもいい、と非協力的な空気だったと当地の博識者三井弘氏は私に語ってくれた。

時勢もあろうが、左翼作家に対する偏見の強さを思わせる。『栄に対してはそういった偏見がみられないのは小説「二十四の瞳」のためであろうか。

私は黒島傳治の世界を思う時、そこには日本のプロレタリア作家と、ある意味では異質な美しさを持ちそなえている作家ではなからうかと思ったりした。

図書館所蔵の書物

「ランデの死」アルツイバアセフ作・原白光訳、大正八年六月十三日刊新潮社、一円十銭。

「死の家の記録」ドストエトフスキー著・長岡義夫訳、大正十年二月十日新潮社、一円八十銭。

「罪と罰」ドストエトフスキー全集3（後編）ドストエトフスキー著・中村白葉訳、大正十一年六月十一日刊十三版新潮社、一円八十銭。

「ルネサンス」ウォルターアペア著・佐久間政一訳、昭和三年七月三日刊八版、春秋社、二円五十銭。

「法律の轍」ゴオルワアジ―著・菊池寛訳、大正十年六月十三日刊春陽堂、九十五銭。

「改造文庫第一部第七十九篇唯物論と経験批判論」(上巻、下巻)レーニン著・山川均、大森義太郎訳、昭和六年一月十日刊改造社、四十銭。

「ペレアスと七王女」大正二年五月二十日刊現代社、四十銭。

「露西亜現代文豪傑作集第四編ゴリキイ傑作集」昇曙夢訳、大正十年二月二十日刊太倉書店、二円二十銭。

「ザイツェフ・ソログーブ傑作集」大正九年十二月十五日刊大倉書店、二円二十銭。

「セムガ」前田河広一郎訳、昭和五年一月五日刊日本評論社、三十銭。

「チエホフ全集7女主人」秋庭俊彦訳、大正十二年八月十三日刊新潮社、一円二十銭。

「燈火外七篇」チエホフ全集8秋庭俊彦訳、大正十三年七月十三日刊新潮社、一円二十銭。

「改造文庫第一部二十七篇経済学の実際知識」高橋亀吉著、改造社、二十銭。

「改造文庫第一部第三十篇女工哀史」細井和喜蔵著、改造社、四十銭。

「代表的名作選集南小泉村」真山青果著、大正十三年五月二十日刊三十版、新潮社、五十五錢。

「恋愛三昧」シュニツレル著・森鷗外訳、大正二年二月二十一日刊現代社、四十錢。

「苦力頭の表情」里村欣三著、昭和二年十月三十日刊春陽堂、五十錢。

「言海」著者兼発行者大槻文彦、改版言海縮刷、大正二年五月一日刊第三百二十版、吉川弘文館、二円五十錢。

「鴨」イプセン作・森田草平訳、新潮社。

右の書物（表紙のウラ）に黒島傳治による次のような書き込みがある。

会話はその人の性格・話す時の気分によりて異って来る。人の個性が会話に於て如何に発現するかを考えねばならぬ、会話は、その人の性格を生すためと、事件を運ぶためと、共に面白味がなさねばならぬ、また、その会話で、その人が他人に対する感情も示す必要がある。

Bell?

悲痛なる夕 運命は誰か作りしむ

神―恐す非ず

人―思す非ず

われ―恐れず非ず

その由は知られざるもの

に作られたり

詩人の作にしてこれ也

「新訳露和大辞典」大正八年十二月二十八日刊大倉書店、六円五十銭。

「ハヂ・ムラー」トルストイ叢書(4)、トルストイ著・相馬御風訳、大正九年九月十二日刊三版、新潮社、一円。

「闇の力・生ける屍」トルストイ叢書(5)、トルストイ著・中村吉蔵、佐藤緑葉訳、大正九年九月十二日刊新潮社、七十銭。

右の書物(広告のページの最後の所)に黒島傳治による次のような書き込みがある。

人道主義者―馬鹿

「トルストイ叢書(10)地主の朝」トルストイ著・田中純訳、新潮社、七十五銭とあるが、ゴム印で改正定価八十五銭とっている。

「全訳戦争と平和(三)」翻訳者米川正夫、大正五年九月二十四日刊新潮社、七十五銭。

「全訳戦争と平和(四)」翻訳者昇曙夢、米川正夫、大正五年十月二十四日刊新潮社、七十五銭。

「全訳戦争と平和(五)」翻訳者昇曙夢、米川正夫、大正五年十一月二十八日刊新潮社、七十五銭。

「全訳戦争と平和(六)」翻訳者昇曙夢、大正五年十二月十四日刊新潮社、七十五銭。

「マルクスエンゲルス全集」(第一卷二十三卷)昭和三年六月二十五日同六年八月十五日刊改造社、ただし、一巻、十九巻、二十巻は欠本である。

「サラムボオ」フロオベール著・生田長江訳、大正二年六月二十八日刊博文館、一円。

「決闘」「生活の河」アレキサンドル・クープリン著・昇曙夢訳、大正二年十一月十五日刊九版、博文館、二円十銭。

「明治文学講座明治作家研究」(上)木犀書院、一円五十銭。

「十九世紀文学主潮・移民文学」ブランデス著・矢口達訳、新陽堂、二円。

「鷗外全集第十五卷」大正十四年二月二十八日刊鷗外全集刊行会、非売品。

「近代短篇小説集（スタンダール、ガルシン、ステイヴンスン、ケルレル、イバニス）昭和四年七月二十五日刊新潮社。

「天鷲絨の薔薇他三篇」（世界近代劇叢書第二輯）・小山内薫訳、大正十三年七月二十日刊金星堂、八十五銭。

「詩聖ゲーテ」中山昌樹著、大正九年三月二十五日刊洛陽堂、二円八十銭。

「鶉と家庭へ」平山美佐男著、大正七年十月十四日刊曉聲社出版部、一円八十銭。

「紅い花」ガルシン著、内山賢次訳、大正十四年一月十五日刊アルス社。

「自然主義劇と一幕物」ストリンドベルグ戯曲全集Ⅱ、翻訳者楠山正雄、新潮社、三円五十銭。

「明治大正文学全集五十一巻」短篇集第一、昭和六年七月十五日刊春陽堂。

「アンナ・カレーニナ（下巻）」昭和二年十一月二十五日刊岩波書店、四円三十銭。愛読・黒島傳治と書き込みがある。

「悲劇イフヂニエ」ゲーテ作・増田平蔵訳、大正三年二月十五日刊玄黄社、八十銭。

「農業革命の理論と実際」ソヴェト同盟経済建設叢書、茂森唯士著、昭和六年五月十八日刊、一円三十銭。

「暗礁」江馬修著、大正六年十月十日刊新潮社、一円四十銭。

「白鳥隨筆集」明治大正隨筆集17、水守龜之助編、大正十五年三月六日刊人文会出版部、一円五十銭。

「チュルヂス夫人・シャルル九世紀年代記」メリメ作・石川剛訳、大正十二年三月二十日刊春陽堂、一円八十銭。  
卷末に黒島傳治と署名あり。

「煉瓦女工」昭和十五年六月十三日刊五十五版、第一八論社、一円三十銭。



「文学の本願」青野季吉著、昭和十六年十一月二十五日櫻井書店。

「資本論第一巻」カール・マルクス著・高島素之訳、昭和二年十月三日刊改造社、非売品。同二巻、昭和三年一月一日、同三巻(上)昭和三年二月二十五日、同三巻(下)昭和三年四月二十三日それぞれ改造社より刊行。

「新選森鷗外集」昭和三年十月二十八日刊改造社、一円。

「小説研究十六講」木村毅著、大正十四年一月三十日刊新潮社、二円五十銭。

「白日夢△夢幻劇▽」ストリンドベル作・松本武雄訳、大正三年九月十八日刊近代文芸社、一円十銭。

「モウパッサン全集第十二編」大正十一年一月十八日刊友文社、二円五十銭。

「世界戯曲全集第二十三巻露西亞篇(一)」昭和三年十一月五日刊世界戯曲全集刊行会、非売品。

「ベエトオフエン並にミレエ」ロマン・ロオラン著・加藤一夫訳、大正四年四月二十八日刊洛陽堂、一円二十銭。

表紙のうらに黒島傳治による次のような書き込みがある。

信仰と理想に敗れ、暗い心を抱いて彷徨して居た余にベエトオフエンよ、汝は如何に大なる偉力をもって臨みしぞ、汝の忍従と、汝の信念と、汝の愛と汝の芸術的良心と汝の深情とは、再び余をして、人生之の信仰に復活せしめたり、ベエトオフエンよ、汝逝いて幾量されど、汝は、日々余の心中に生きて働らきつつあり、噫、余は幸福なる哉

?

憶

「冬を越す蕾」(世界戯曲全集第二十二巻中欧篇中欧現代劇集) 昭和十年六月十二日刊、一円五十銭、非売品。

「トルストイ全集1」昭和五年四月五日刊岩波書店。

「同2」昭和四年十二月十五日同刊。

「同3」昭和六年二月十日同刊。

「同4」昭和四年十一月五日同刊。

「同5」昭和五年五月五日同刊。

「同6」昭和五年七月五日同刊。

「同8」昭和五年二月五日同刊。

「同10」昭和五年六月五日同刊。

「同13」昭和五年一月五日同刊。

「同14」昭和五年十一月五日同刊。

「同15」昭和五年三月五日同刊。

「同16」昭和五年八月五日同刊。

「同20」昭和六年一月十日同刊。

「同22」昭和五年十月五日同刊。

「コサック」大正元年十二月五日刊新陽堂、一円。

「牢獄の五月祭」昭和二年六月二十八日刊春陽堂、一円五十銭。

「海外文学新選第一編」ブルスコ・イバニス作・永田寛定訳、大正十三年五月十日刊十一版、六十銭。

「ジェリヤスシーザー」坪内逍遙訳、大正八年八月十五日刊早稲田大学出版部、二円五十銭。

「サニン」アルツイバシエヴ原作・武林無想庵訳、大正十年五月十日刊二十三版三星社出版部、一円五十銭。

「ケルンの鐘」小島勲著、昭和五年四月十日文芸戦線出版部、五十銭。

「マルクス主義の見たトルストイ」国際文化研究所訳、昭和三年十二月三日刊叢文閣、六十銭。

「アンナ・カレーニナ上巻」トルストイ作・中村白葉訳、大正十五年六月十五日刊岩波書店、四円三十銭。

「夜の光」志賀直哉著、大正七年一月十六日刊新潮社、一円四十銭。

「フオマ・ゴルデーフ曾て人間であった人に」ゴリキイ全集第四巻・訳者昇曙夢、昭和四年十二月十八日刊改造社。

「罪の肉塊外十三篇」モウパッサン全集第十三巻、大正十一年二月二十日刊友文社、二円七十銭。

「クロポトキン原著」大正十一年二月一日刊アルス、二円六十銭。

「芸術とは何ぞや」トルストイ著・木村毅訳、大正十二年十一月二十日刊春秋社、一円。

「新興文学全集第二巻」(日本Ⅱ) 昭和三年三月一日刊平凡社、非売品。

「同十巻」(日本) 昭和四年二月三十日刊同。

「同第十二巻」(英国) 昭和六年一月二十八日刊同。

「同第十五巻」(仏蘭西Ⅰ) 昭和五年八月十日刊同。

「同第十七巻」(仏蘭西Ⅳ) 昭和三年六月十日刊同。

「同第十八巻」(独逸Ⅰ) 昭和三年四月二十五日刊同。

「同第十九巻」昭和四年八月二十日刊同。

「同第二十巻」(独逸Ⅱ) 昭和五年一月五日刊同。

- 「同第二十四卷」(露西亞) 昭和三年八月五日刊同。
- 「新興文学集、現代仏蘭西小説集」 昭和四年三月二十日新潮社。
- 「トルストイ全集3」 大正八年一月二十五日刊春秋社、非売品。
- 「同4」 大正八年三月三十日刊同。
- 「早稲田文学社文学普及会講話叢書第十四篇」 大正五年六月二十五日刊再版文学普及会。
- 「世界戯曲全集第二十二卷」 昭和二年九月二十日刊近代社、非売品。
- 「文芸評論」 正宗白鳥著、昭和二年一月十日刊改造社、一円八十錢。
- 「希臘悲劇六曲」 中村吉藏訳、大正十一年八月五日刊東京堂書店。
- 「ぢやく、馬馴らし」 坪内逍遙訳、大正九年十一月八日刊早稲田大学出版部、二円五十錢。
- 「罪と涙」 フォン・クラ―ネ女史原作、昭和十一年八月十六日刊第二版光明社、一円。
- 「新選里見淳集」 昭和四年八月五日刊改造社、一円。
- 「狂へる恋外十九篇」 モウパッサン全集第四篇 大正十年一月十五日刊友文社、二円八十錢。
- 「天使園の唄」 岡田光一郎著、昭和三年十月十二日刊川合書房、一円。
- 「近代劇大系5」 大正十二年一月十五日刊近代劇大系刊行会、非売品。
- 「夜鳥」 ルヴェル作・田中早苗訳、昭和三年六月二十三日刊春陽堂、一円七十錢。
- 「暗夜行路(前篇)」 志賀直哉著、大正十一年七月六日刊新潮社、二円五十錢。
- 「一週間」 ユリイ・リベテインスキイ作・池谷三郎訳、大正十五年五月十日刊改造社。
- 「人形の家」 イブセン傑作集島村抱月訳、大正二年四月二十八日刊早稲田大学出版部、九十錢。

「愛蘭劇曲集第一卷」松村みね子訳、大正十一年六月十日刊刊玄文社出版部。

「イプセン誕生百年祭記念出版」(仏蘭西篇) 昭和二年六月刊第一書房、非売品。

「最新ロシア文学研究」リウオフ・ロガチエフスキー著・井田孝作訳、大正十五年十月十六日刊聚芳閣、二円二十錢。

「月水金小説戯曲評論」明治大学文芸科卒業製作選集Ⅰ 昭和十年六月二十五日刊健文社、一円。

「左翼農民運動組織論」前川正一著、昭和六年三月十四日刊白楊社、一円。

「プロレタリア文学論」コーガン教授著・昇曙夢訳、昭和三年六月十五日刊三版、白楊社、一円五十錢。

「赤い戦線に立って」横井天華著、大正十四年三月十日刊新潟毎日新聞社、一円八十錢。

「子をつれて」葛西善蔵著、大正八年三月一日刊新潮社、一円五十錢。

「戯曲集猿から貰った柿の種」北村小松著、昭和二年五月八日再版原始社、一円九十錢。

「支那大盗傳」洪川玄耳著、昭和三年九月二十日刊白水社書房、二円。

「新選相馬泰三集」昭和四年五月十五日刊改造社、一円。

呈、黒島傳治様 泰三と署名がある。

「水葬」高橋辰二著、昭和二年九月十日刊荻野印刷所、一円。

「ひらかれた処女地」(後篇) ショーロフ作・上田進訳。

「風雨帖」藤森成吉著、昭和十四年九月六日刊改造社、二円三十錢。

「ヘツベル傑作集」吹田順助訳著、大正五年十一月三日刊洛陽堂、一円六十錢。

「現代仏蘭西文芸叢書(7)ビュビュ・ドウモン・パルナッス・フィリップ著」井上勇訳、大正十五年二月十七日刊新潮

社、一円四十銭。

「同生活の盃」イブトン・プワニン著・原久一郎訳、大正十三年十一月二十日刊新潮社、一円四十銭。

「鉄はいかに鍛へられるか」ニコライ・オストロトフスキイ作・稲田定雄、茨新治、山本真二、西川順訳、昭和十一年七月十二日刊文芸案内社、一円五十銭。

「我」里見弴著、大正八年五月八日刊新潮社、一円五十銭。

「社会小説叢書3 裸の年」ボリス・ピリニヤトク著・富士辰馬訳、大正十五年九月三日刊新潮社、一円五十銭。

「伊太利紀行」ゲーテ作・高木敏雄訳、大正三年五月七日刊行隆文館、一円八十銭。

「モリエール全集」坪内士行訳、大正九年十二月一日刊天佑社、四円六十銭。

「イブセン」中村吉蔵著、大正三年十一月二十日刊実業之日本社、一円。

右の書物（トビラ）に黒島傳治による次のような書き込みがある。

心からなる叫び、これ詩にして、美なるものなり、ただその人格の如何によって、その叫びに深淺あるは免れざる所なり

「印度文学講話」文学博士松村武雄著、大正四年十月一日刊阿蘭陀書房、一円二十銭。

右の書物（トビラ）に黒島傳治による次のような書き込みがある。

われはわれ　われ右し

見し方

われわれわれ

われものしなれを恋妻せんか

われの心も肉体も、

なれのからん捧げんか

われはわれを要せし

われはわれを捧ん

おゝわれ、なれを恋し

す

「ひらかれた処女地」(前篇) ショーロホフ著・上田進訳、昭和八年九月十二日刊ナウカ社、一円二十銭。

「狂者の告白」(自叙伝) ストリンドベルグ作・蘇武利三郎訳、大正三年五月二十日刊福岡書店、一円。

「イルの女神像」メリメー原著・岡田実磨・石川剛共著、大正十三年六月十五日刊泰文堂書店、一円五十銭。

「横っ面をはられる彼」レオニイド・アンドレエフ作・熊沢復六・北村喜八共訳、大正十五年一月二十三日刊浅

見文林堂、一円四十銭。

「ロミオとジュリエット」坪内逍遙訳、明治四十三年十月一日刊再版早稲田大学出版部、富山房、一円三十五銭。

「死」ポール・ブルジエ著、廣瀬哲士訳、昭和十五年五月二十日刊東京堂、一円六十銭。

「明治大正昭和文学全集第五十一卷」昭和六年七月十五日刊春陽堂、非売品。

「改作田園の憂鬱」佐藤春夫著、大正八年六月二十日刊新潮社、一円二十銭。

### 柴田氏所蔵の書物

「ゲエテ詩集」生田春月訳、大正八年五月二十三日刊新潮社、八円五十銭。

「曆」壺井栄著、昭和十五年三月九日刊新潮社、一円七十銭。

「資本論」第一卷、第三分冊（岩波文庫）、河上肇、宮川実訳、昭和三年三月五日刊岩波書店、二十銭。

「マルクス資本論」第一卷、第二分冊（岩波文庫）、昭和三年三月五日刊岩波書店、二十銭。

「新選山家集」（岩波文庫）佐々木信綱校訂、昭和三年十月五日刊岩波書店、四十銭。

「左千夫歌集」（岩波文庫）齊藤茂吉、土屋文明選、昭和三年七月二十五日刊岩波書店、二十銭。

「うたかたの記、他三篇水沫集より」（岩波文庫）森鷗外著、昭和二年十月一日刊岩波書店、二十銭。

「代表的名作選集・白秋篇」昭和六年二月一日刊二十三版新潮社、五十銭。

「破戒」島崎藤村著、昭和二年四月十日刊四十六版、新潮社、一円三十銭。

「コロンバ」メリメ作・杉捷夫訳（岩波文庫）、岩波書店、四十銭

「石川啄木全集」（第三卷、詩歌集）昭和三年十一月三十日刊改造社、定価なし。

「日本小説集」（文芸家協会編、第六集）昭和五年六月三日刊新潮社、一円五十銭。

「続ロダンの言葉」高村光太郎訳、大正九年五月二十八日刊叢文閣、一円七十銭。

「不言不語」（名家傑作集・第一篇）紅葉山人作、大正五年三月十五日刊、五十銭。

「世界地理風俗大系Ⅲ」昭和五年七月十七日刊新光社刊、定価なし。

「世界美術全集」（第二十四卷、ルイ王朝(I)・清朝中期・徳川(實永享保)時代)昭和三年十月十日刊平凡社、非  
売品。

「世界美術全集」（第十九卷）、北歐ルネサンス、明中葉、朝鮮(宣祖及光海君期)、印度モグール朝、桃山時代)  
同。



「世界美術全集」(第三十一卷、後期印象派(上)と清朝及明治末期) 同。

「坂道」壺井栄著、昭和二十七年三月三十日刊、百四十円。黒島知子さん、壺井栄と署名ある。これは傳治の妹に贈ったものであろう。

「新選前田河廣一郎集」昭和三年二月三日刊改造社、一円。黒島傳治兄へ著者、と署名がある。

「芥川龍之介集」昭和三年一月九日刊改造社、定価なし。

「廣津和郎・葛西善蔵・宇野浩二集」昭和四年十一月十日刊改造社、定価なし。

「世界地理風俗大系」(Ⅱ) 昭和四年六月十日刊新光社「同」(Ⅷ) 昭和五年四月二十二日刊同、定価なし。

「治療室にて」(平林たい子短篇集) 昭和三年九月二十五日刊文芸戦線出版部、一円。黒島傳治様、平林たい子と署名がある。

「資本論」シンクレア著・前田河廣一郎訳、昭和五年四月二十日刊日本評論社、一円五十銭。呈黒島傳治様、訳者と署名がある。

「新興文学全集」(第七卷、日本Ⅶ) 昭和四年七月十日刊平凡社、非売品。

「小悪魔」ソログーブ作・中村白葉訳、大正十一年三月十日刊叢文閣、二円三十銭。

「政治経済、労働者運動地図」(Ⅰ、帝国主義)アレックス・ラドー著、ロートシュタイン序、昭和六年四月十日刊希望閣、二円五十銭。

「日本地理大系」(満洲及南洋篇) 昭和五年十二月二十日刊改造社、定価なし。

「図解化学工業」昭和四年四月二十五日刊、財団法人科学知識普及会、五円。

「模範英和辞典」明治四十五年六月二十六日刊三省堂、二円。

「歌の作り方」金子薫園著、大正五年六月三十日刊再版新潮社、四十八銭。黒島白舟と自から署名してある。

「明治太正昭和文学全集」(短篇集第一) 昭和六年七月十五日刊春陽堂、非売品。

「アンナ・カレニナ」(上下) トルストイ著・相馬御風訳、大正二年十一月二十五日刊二十五版早稲田大学出版部、  
一円五十銭。

「イプセン」中村吉蔵訳、大正三年十一月三日刊実業之日本、一円。

柴田氏所蔵の手紙(便箋六枚でペン書きであり、封筒はない。日付大正七年八月十九日)

ああ那是でせようか 貴方の母さんは岩井さんをそんな怖い方だと思つて居らつしやるのか知ら

岩井さんはそんな方とは異ひますワ、それはく優しい方ですワ

貴方はよく知つて居らつしやる筈ですワ、私の父も非常に岩井さんといふ方を誤解して居りますの、岩井さんが私の宅を訪づねて下さる時に、私につらくあたりますの、那是か知りませんが、十七日の午前十時頃に貴方からの御玉章はいただきました。

御返事書いてましたら、会社から父が帰つて参りまして、何か社長とでも又、言ひ合つたのでせう。御機嫌が大変に悪いの、そして亜米利加に手紙を書けつて無理に強いるのですよ。私英語を一寸も知らないの 父は怒るのですもの、そしてそのまゝ貴方にも御手紙を戴いたきりで御返事を差上げる時が参りまんでした。

此日から雇人の計算日なんですって大変やかましいもんですから、叔母の宅に行きました。尤も隠居にも居りました

けど矢張淋しかつたもんですから、叔母の宅は東の上の方で高谷と云いますの、小供はありませんので、ひっそりして居ります。

その夜叔母さんから色々な話を承りました。私の身上もそれから叔母さんの（オールドミスで美しい母の一番下の妹）悲しい思ひ切りのいゝロマンスをききました。そして十一時頃まで泣きました。

叔母さんは本当に優しい方ですの、私は世界中の女の中、賢くてえらい人は私の母と叔母さんだと思ひますの、（今でもですの）  
巴ぼれかも知れませんが

伯母さんと話して居りまして何故だか貴方が又阪手に居らつしやつて私を待つてゝ下さつたやうに思はれて仕方がありませんでした。それに貴方だつて吃度苦痛で居らつしやると思ひますワ、ですから御逢ひしてお話することは、取り消しに致しませう、私は只一人そう思つて居ります。

夢で逢つて話ませう 夢で接吻して下さいそして抱いて下さいませ、すべて夢で、ネ

皆んな自然や時の力が作つた罪ではございませんワ

皆んな私自身の作つた罪なんですもの、

貴方が岩井さんに対して自身の重い積任つとめをを御知りになつたやうに私も岩井さんに対してつくさなければなりません。

#### 柴田氏所蔵の手紙

義務を知りましたもの、

私は貴方の御顔を見る度にいつも堅い決心がゆるんでしまいますの丸金会社の前で御逢ひした時だつて私の決心はゆるんで居りました。馬木の所で壺井さんに逢ひました時にも、貴方にお渡しする手紙を待つてましたけど……

御帰りになる日が二十三日にならないものでせうか

私は二十五日に帰られませんが、もう病院の方にもそう云つてやりましたから、二十三日ですと船の中でゆつくり御話を致しますことが出来ますけど

それに都合よく行きましたら満洲の方に行くやうになるかも知れないのでございますよ上京することを泣いてたのみましたけど勉強するのなら上京させない、彼んな看護婦の試験位で肋膜を病ふなんてとても志を貫くことは出来ない。

お前には外にまだ使命があるのだと云つてきませんのですよ。

全く悲観してしまいます、叔母に相談しましたら叔母は、まさか満洲に行く時になつたら、どうにかしてあげると云つて下さるのですよ、若い叔母は私に本当に同情して呉れますの。

八月十九日の晝

智

なつかしい

傳治様

以上が手紙の全文である。(原文のまま)全集の年譜(大正六年の項)にも

この頃、隣村の岩井栄(壺井)の友人で、当時、大阪の難波病院で看護をしていた岡部小咲と親しくなった

(彼女は短歌に特別な情熱を注ぐ文学少女で、小説も書いていた)。やがて肋膜炎を患って帰島した彼女と頻繁にゆききした。病気の小咲をモデルにして、この頃書いたと思われる「呪われし者より(K姉に)」(黒島通夫・百四十枚まで以下散逸)が残っている。

とあることから、又文面からしても岡部小咲が黒島傳治にあてたものと思つてまちがいないだろう。親類の人の記憶によれば、短歌や小説によくペンネームに智と使っていたようであるが、定かではない。

岡部小咲なる人物についてはさらに詳しく調べたい。